

東京地方壮年連合通信 Vol.90

TOKYO SOUNEN RENGOU TSUUSHIN

2021年9月27日

東京地方壮年連合が目指すもの

東京地方壮年連合会長 坂口 昌彦（目白ヶ丘教会）

この夏の猛暑も終わり、やっと秋の涼しい心地よい風が吹くようになりました。コロナ過も予断を許さない中、皆様いかがお過ごしでしょうか。多くの教会が対面礼拝を控える昨今です。東京地方壮年連合もまた、多くの問題を抱えながらも心も新たに再スタートを切ろうと致しております。もう一度、東京地方壮年連合が目指すものと考えて皆様と共にそれに向かって進んで参りたいと思います。

当壮年連合が第一のテーマにしておりますのは神学生のみならず神学校そして献身者の色々なサポートです。次に壮年信徒相互の励ましと交流があります。

しかし、現在私達を取り巻く環境は、生活の多様化、ITを駆使した情報過多、加えて異常気象やコロナ過です。文明の進歩は、本当は人が余裕をもって神と向かい合う時間を頂くはずのものです。しかし、現状は如何でしょうか？却って、業務に於ける書類の増加に加えPCやスマホに時間を取られ、疲れの中に一日を終えていないでしょうか。このような環境だからこそ、ゆっくりと神様と向い合って語り考え、神様から愛と安らぎと許しを戴く時間が必要ではないでしょうか。現代は、本当に神学を志す者や献身者を育てるには困難な環境に在ると言わざるを得ません。

本 Vol.90 通信の第2面にて、2021年度全国壮年大会の報告をしておりますが、本年度全国壮年大会でも、講演を戴いた講師の先生方からも問題提起や進言を戴いております。

これらの難題を解消するには、まず、各教会の壮年の皆様に当地方連合に目を向けて戴くことです。その為には、各教会の壮年への連絡網の確立が必要で効率の良い広報活動は元より地道な広報活動の展開が望まれます。当壮年連合が実施する広報活動の主なもの、神学校献金のお願い、神学生や献身者との肌理細かいコンタクト、神学校のPRなどです。勿論、東京地方壮年連合通信は、その最も大きな手段です。もう一つ進めば、献金のまとめのお手伝いや現在の新任牧師先生、神学生方による中高生を含む若い方々への語りかけのお手伝いなどです。

東京地方壮年連合が、ここに述べてきた活動をこれまでより一層の活発に行うには、働き手が不足しております。年4回発行の東京地方壮年連合通信の発行と研修会の企画立案実施がやっとの状況です。2023年には全国壮年大会が東京にて開催予定です。毎号の連合通信巻末に掲載してきましたよう多くの壮年の方々が各自の持てるタレントを生かして東京地方壮年連合の活動に是非ともご奉仕ご協力をお願いする次第です。

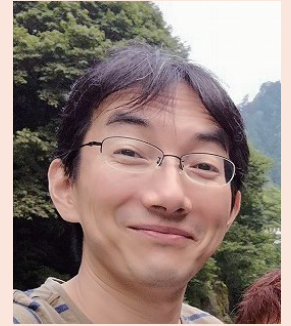
以上

第56回全国壮年大会に参加して

木村 晋治（中野教会）

第56回全国壮年大会は、2021年8月21日（土）に304名が参加し、福岡からZoomにより開催されました。大会テーマは、「いまこそ、バプテストの伝道スピリット～伝道者養成を考える」でした。

主題講演は奥村敏夫牧師（釧路キリスト教会）の「伝道のすそ野を拓げる～教会再活性化の一つの試み」でした。産業が衰退し、人口が減少する釧路地区では、この30年間に30あったキリスト教会が15に半減したそうです。その釧路のバプテスト教会で「忠実・堅実な信徒と危ない牧師」が出会い、「開かれた教会」を目指していき、いくつもの新たな礼拝が始まります。たとえば、滞日フィリピン人との出会いから英語礼拝が始まり、地域の人びとの支援にも結びつきます。地域社会と人々の実情や変化に応じていく伝道スピリットとその実践に感銘を受けます。いま教会は、社会や人々の変化に対応しているのだろうかと考えさせられました。この働きは牧師だけでなされたものではありません。奥村牧師は、「万人祭司」よりも、牧師も信徒も「万人伝道者」と呼びたいと言われます。この「万人伝道者」としての献身者の群れからこそ牧師・宣教師は生まれると強調されました。



中田義直常務理事は講演②「教会の現状とこれからの協力伝道について」で、4回目の機構改革は、財政的な必要から生じた改革であることを確認しながらも、「共にキリストを証しするために」という理念の下、「連盟主導から教会主導」というベクトルを持った改革である、と説明されました。また、新型コロナウイルス感染症の困難の中での教会の具体的な取り組みや出来事を紹介され、そこにこれからの協力伝道のヒントがあるのではないかと述べられました。

講演③は、「3つの神学校の現状と、伝道者養成を考える」です。九州・東京バプテスト神学校の報告からは、働きながら学べる夜間神学校であることに一つの存在意義があると感じました。また、伝道者養成とともに、「万人伝道者」である信徒の神学の学びを担っていることも大切な役割だと考えます。西南神学部については、濱野道雄神学部長（西南学院大学）が、SWOT分析という手法を用いて現状を分析し、次の一步について述べられました。各神学校のお話から、それぞれ現状とミッションは異なると思うとともに、協力・交流の必要性も感じました。

私は大会初参加でしたが、オンライン視聴のため、参加したという実感が薄いのが率直なところです。本大会の中で何人もの方が「オンライン礼拝」に言及されました。濱野神学部長は、「宗教の「私事化」」に言及されましたが、私はオンラインのメリットは理解しつつ、オンライン礼拝はこの「宗教の「私事化」」を進める危険性もあると考えます。「万人伝道者」と「宗教の「私事化」」が対照的に映ります。この1日のオンラインの大会で、大会テーマに結論が出されたわけではありません。質疑も限られ、発題がなされた段階と言ってもいいと思います。「壮年」だけでなく、さまざまところで伝道スピリット・伝道者養成について語り合われることを願います。

以上

自由闊達な交わりと年2回の神学校週間

—東京地方連合・東ブロック 市川大野キリスト教会・壮年会の現状—

志築 正治 (市川大野教会)

私たち市川大野教会・壮年会は「互いの意見を尊重しながら」毎月第2主日の午後に例会を持ってきました。しかし、2020年3月以降の新型コロナウイルス感染予防の観点から対面での例会を持つことはできていない状況です。

今この時にあって、これまでの活動を振り返りつつ、壮年会活動を分かち合うことができればと思っています。

まず、壮年会の例会ですが原則毎月第2主日の昼食後に行っています。例会では、バプテスト誌のメッセージを読み、持ち回りの司会者が発題をし、それぞれが感じたことを自由に言い合います。たまには激論?になることもありますが、多様な意見を全否定せず信仰の課題として分かち合うことを大切にしています。

次に、隔月（原則偶数月）には、壮年会が昼食の当番を担っています。できる限り、自分たちで作ることとし、これまでクリームシチュー、すいとん、カレーライスなど（たまに各種カップラーメンになることもあり）を提供してきました。また、1食250円としていますが、その売り上げと材料費との差額は、神学校献金としてささげています。

そして、壮年会が担っている働きの中で、神学校を覚え祈りささげることが大きな働きの一つとなっています。特徴的なのは、市川大野キリスト教会では、年に2回（6月と12月）の神学校週間を持っていることが挙げられます。

6月の神学校週間は、全国壮年会連合がすすめている神学生奨学金のために祈りささげていて、2月の神学校週間では東京バプテスト神学校のために祈りささげています。

教会の支出予算も、神学校献金（神学生奨学金）と神学校献金（東京バプテスト神学校）の2本建てとして、それぞれ対外献金としてささげています。特に、2月に行う東京バプテスト神学校を覚えての神学校週間では、その働きを覚えて神学生の方をできるだけゲストとして呼び出して、証を聴き、壮年会が食事づくりを担当し、神学生の方との教会員との交わりを持つようにしています。

以上が市川大野キリスト教会・壮年会の活動ですが、2020年2月に行った神学校週間の礼拝を持って以来、新型コロナウイルス感染予防のため、例会・食事作りは行っていない状況が続いています。今現在も新型コロナウイルス感染拡大が終息しない状況ですが、教会では主日礼拝を行うこと（当初は3部礼拝、今年度から2部礼拝）は許されています。そのことを感謝しつつ、年2回の神学校週間のときに、神学生の方々のこと、神学校の働きを覚え祈りささげていくことができる壮年会でありたいと願います。

そして再び自由闊達な壮年会例会が持てることも併せて祈り求めています。

以上



東京地方壮年連合祈りの課題

- コロナ禍にあって最前線で戦っている医療関係者や経済的に厳しい状況にある方々の為に。
- コロナ禍にあって、東京連合内の54の各教会・伝道所の励ましの為に、教会形成を担う壮年の働きの具体的な推進の為に、各教会の壮年の賜物が活かされ良き働きを推進出来ますように。
- 西南学院大神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校の神学生の良き学びの為に。また教員、役員・スタッフの方々の働きの為に。献身者が新しく起こされるように。
- 11月23日（火・休）の東京地方壮年連合の総会の準備の為に、そして各教会からより多くの壮年の出席者が起こされるように。
- 東京壮年としての良き「学びの時」が備えられるように。
- 東京地方壮年連合が担う、2023年の全国壮年大会の準備のために、必要な実行委員が与えられるように。
- 各教会の壮年とのコミュニケーションの為に、いくつかの課題を克服しながら、連合通信やメールマガジンやHP（検討中）が効果的に用いられるように。
- 各教会で次世代を担う壮年の働き人が起こされるように。
- 東京地方壮年連合役員会の充実と良き知恵と導きが与えられて東京地方壮年連合の働きをしっかりと推進できるように。

訂正とお詫び

前回の東京地方壮年連合通信 Vol.89 で、富里教会武井誠司牧師のご紹介での就任日を2021年と記しておりましたが2020年の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

東京地方壮年連合 2021 年度定期総会のご案内（公告）及び研修会のご案内

2021年11月23日（火曜日・勤労感謝の日）

10時～11時 定期総会 場所未定（オンラインを併用）

11時～12時 研修会（オンラインを併用）「私達が学ぶべき現代神学について（仮題）」

講師：寺園喜基氏（元西南学院理事長、院長、大学神学部教授）

役員のご報告

栗本 岳尚（市川大野教会）兄には、9月11日をもって役員をご退任になりました。栗本兄は書記として御奉仕頂きました。これまでの長年にわたるお働きに感謝いたします。

東京地方壮年連合役員

| | | | | |
|---------------|------|-----------|---|---------------|
| 坂口 昌彦（目白ヶ丘教会） | 会長 | ブロック委員 | 東 | 志築 正治（市川大野教会） |
| 高良 研一（恵泉教会） | 事務局長 | | 西 | 藤田 博（中野教会） |
| 井東 健男（府中教会） | 会計 | | 南 | 募集中 |
| 木村 晋治（中野教会） | 書記 | | 北 | 募集中 |
| 松田 俊介（目白ヶ丘教会） | 監査役 | 神学校献金推進委員 | | 募集中 |